

大阪アスベスト対策センター ニュース

2023 年 8 月 11 日

大阪市中央卸売市場アスベスト飛散事件について

報道

テレビ大阪

<https://www.youtube.com/watch?v=St2ugs3zdU8>

読売テレビ

<https://www.youtube.com/watch?v=9NE0ZmY8G4U>

大阪市による発表

[報道発表資料](#)

報道発表資料の一部訂正等について「大阪市中央卸売市場本場におけるアスベスト含有等の調査結果について」（中央卸売市場）

- [中央卸売市場報道発表資料](#)

ご存じのとおり、大阪市中央卸売市場（西棟）で4月に火災があり、天井から落下したものを調べると石綿含有建材であったことが判明しました。これまで報じられたおもな内容は、

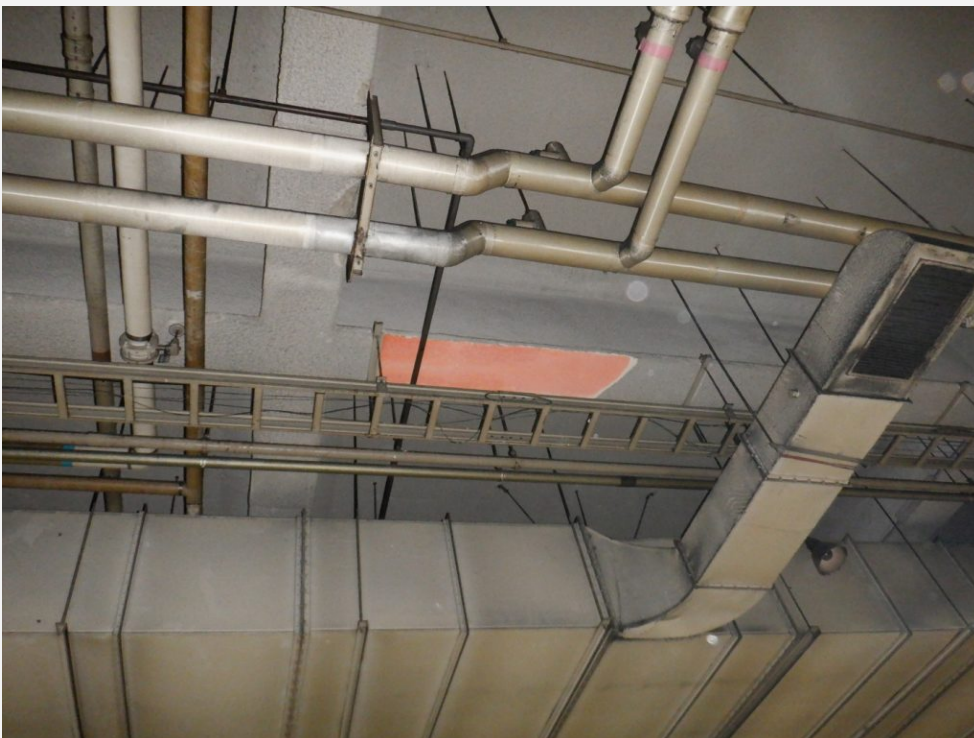
- ① 市場の西棟ではりや天井の吹き付け材（耐火被覆材）35カ所を調べたところ、すべてから国の基準を超える石綿を検出。延べ床面積約5万3000平方メートルすべての吹き付け材に石綿含有と判明
- ② 空気中に健康被害をおよぼす量の石綿飛散は確認されなかったため市場は継続使用
- ③ 吹き付け材の落下もあり、劣化のひどい部分（全体の26%、約1万3780平方メートル）から順次除去する方針 というものです。

なお、このうち、②は、私たちの申し入れもあり、訂正（後述）しています。が、継続使用しています。まずは、大阪市が発表した写真をご覧ください。

大阪市・中央卸売市場本場西棟でアスベスト含有吹き付け材が火災や落下ではなく離したようす



2023 年 4 月、大阪市・中央卸売市場本場西棟 4 階で起きた火災の影響でむき出しになった鉄骨。火災で焼け落ちた吹き付け材（耐火被覆材）を含む廃棄物からもアスベストが検出された（大阪市提供）



大阪市・中央卸売市場本場西棟でアスベストを含む吹き付け材（耐火被覆材）の劣化が進み一部が落下したようす（大阪市提供）



2022 年 10 月に大阪市・中央卸売市場本場西棟の天井から脱落・落下して粉々になった吹き付け材。当時はわからなかったが実際にはアスベスト含有。当然落下時にアスベストが飛散したはずだ(大阪市の発表資料より)



2022 年 10 月に大阪市・中央卸売市場本場西棟でアスベストを含む吹き付け材が脱落した場所。発表時はアスベストを含まないと考えていた(大阪市の発表資料より)



2023 年 6 月に大阪市・中央卸売市場本場西棟のはりから落下した吹き付け材。当時はアスベスト不含有と考えていたが、実際には含有していた。落下時にはアスベストが飛散したはずだ（大阪市の発表資料より）



2023 年 6 月に大阪市・中央卸売市場本場西棟で吹き付け材が脱落・落下したはりの状況。発表時はアスベストを含まないと考えていたが、実際は含有していた。3 割近くが劣化しているとされ、アスベストを含む吹き付け材が落下する事故が頻発している（大阪市の発表資料より）

中央卸売市場に行ってきました。

8月2日、大阪アスベスト対策センターの呼びかけで、大阪市中央卸売市場の現場に行ってきました。事前に連絡し副場長さんに案内してもらいました。

参加したのは、伊藤、愛知教育大学准教授の榊原洋子氏、熊本学園大学教授の中地重晴氏でした。

まず、中央市場の西棟は中央市場の一部ですが、巨大です。建坪が600坪以上あります。そのすべての天井と梁などの鉄骨材にすべて例外なくバーミキュライト（ヒル石）の吹付が行われています。

施工は1974年。この年の翌年1975年にはじめて5%以上のアスベスト含有建材の使用が禁止されています。当時、バーミキュライト吹付材にわざわざアスベストを入れる工法も広く行われていました。アスベストのテーリング材などを入れると施工がやりやすくきれいに仕上げられると言われてきました。

幸いこの建物のバーミキュライトはわざわざアスベストを混入させたわけではなく、バーミキュライトの不純物としてアスベスト（トレモライトが多い）が入っていたようです。

2006年に大阪市が調査した時に当時の検査方法ではアスベストは「非含有」となっていました。2008年に、アスベストの種類が青石綿、茶石綿、白石綿の3種類からトレモライト、アクチノライト、アンソフィライトという3種も含めて



6種類を調べなければならないことになりました。

しかしその時、大阪市都市整備局の判断で、「調べなおす必要はない」と判断しています。そのことが、今日まで「アスベストはない」との認識をつくりだしてきました。

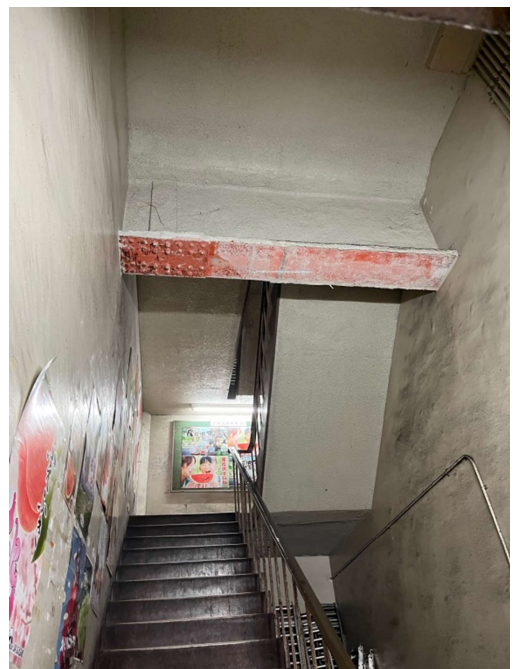
あちこちで剥落、その都度飛散・ばく露

大阪市の発表した写真にもありますが、右は今回撮影したものです。あちこちで吹付材が剥落し下地の鉄骨やスラブ材が露呈しています。長い間の地震や、何らかの接触や衝撃で剥落しています。

当然ですがその都度アスベストは飛散して施設利用者はアスベストにばく露しています。

中央市場の発表で、現在の気中濃度測定で大丈夫な値だ。心配ないと発表してきました。これは違う。必ず飛散し、必ずばく露している。落ち着いた段階の平均的な濃度数値で安心するわけにはいきません。

私たちはその点を指摘しましたが、その後大阪市の発表では、



飛散・ばく露した可能性があるということに訂正されています。

ヒル石吹付材のアスベスト調査

ヒル石のアスベスト含有は先ほども書いた通り施工場所によってアスベスト濃度の高いものと、そうでないものがあります。この点について、榊原先生から、愛知教育大学で学内のヒル石吹付材の調査をしたときのことを学会に発表した経験があり、いろいろな経過をお話ししました。また、その資料をお渡ししました。確かに正確な分析が重要です。

吹付材の除去工事の在り方と築地市場の解体工事

問題は、西棟の吹付材を以下にして安全に除去するかということになります。西棟を閉鎖して除去することはできません。

例えば全館で飛散防止剤を散布し、少し飛散の危険性を下げ、区画を決めて順に工事していくなどと言うことになると思われます。比較的経験があり、安全な工事に取り組んでいる業者を探す必要があります。

あわせて、中央市場として注目すべきは、築地市場の解体工事です。

築地市場にはたくさんのアスベスト含有建材が使われていました。もちろん吹付も大量にありました。たまたま築地市場で働いていた人が中皮腫アスベストセンターの事務局長であったことも幸いして、アメリカやイギリスで研鑽を積んだ専門家・技術者を招き、工事発注者である都の市場職員、市場の従業員や施工業者にも丁寧な教育・コミュニケーションを進めました。アスベストのリスクコミュニケーションと言います。

例えば隔離養生の精度を確かめる「スモークテスト」は日本では義務化されていません。しかし隔離養生をしたところでもテストをすると必ずと言ってよいほど、煙が漏れます。施工業者たちも最初は反発していましたが、だんだん世界的に常識的な施工に理解を示していきました。こうしたことは、スレート材の除去工事、塗装剤の下地剤の除去工事などいろいろな施工でも経験していきました。

こうして東京都の職員たちも「築地方式」という名称もでき、確信をもって取り組んでいきました。

東京都の「令和4年度東京都建築技術発表会」で若手職員が発表し、「旧築地市場解体工事における「適正、安全、完全なアスベスト除去」に向けた取り組み」が最優秀賞を受賞しました。

https://www.zaimu.metro.tokyo.lg.jp/kentikuhozen/R4_gijutsuhappyo.pdf

また、今年の6月には国土交通省関東地方整備局が主催する「スキルアップセミナー関東」で優秀賞を受賞しています。 https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000860071.pdf

東京都の中央卸売市場の職員に連絡をとり、大阪の中央市場から経験を聞き、交流をしてもらうように呼びかけました。

大阪アスベスト対策センターのこれからのとりくみ

6月23日に開催された、大阪アスベスト対策センターの第18回総会で、大阪アスベスト対策センターはいったん終了することになりました。

大阪労連がこれまで事務局長を配置してくれましたが、人が出せないということです。継続して取り組もうという意見が多かったのですが大阪労連の意向でいったん終了となりました。

しかし総会で、今後の新しい大阪アスベスト対策センターの活動の方向についても報告されています。

その後新しいアスベスト対策センターの在り方についての相談会が開かれ、以下の方向が確認されました。

- アスベスト疾患の診断ができる医師や医療者
- 法律的な相談や法的なとりくみができる法律家
- アスベストの調査ができる調査者
- 建築家や研究者の協力と共同
- 全国組織との共同を進める
- これらの一定の専門家と、アスベストの被害とかかわりのある団体を中心に、再結集をしていきましょう。

そして何より、

ネットワークとしてアスベストに係る情報を交換し、お知らせし交流しましょう

会議で集まって議論することもあります、なによりメーリングリストをはじめネットワークを構築して情報を交換します。活動についてお知らせします。

今後各団体を回ってお話ししご協力をお願いしていきます。

どうぞよろしくお願いします。

以上